



Title	沖縄関係 沖縄返還交渉 -3 (対内) (大臣記者懇談 (十一・二七) 外務省外交史料館レファレンス番号 : nd)
Author(s)	-
Citation	令和元年度外交記録公開 公開日 : 2019年12月25日 外務省外交史料館管理番号 : B'5.1.0.J/U24 CD・DVD番号 : nd
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

大正記 卷之七 (十一、二、三)

秘
無期限

~~事務次官~~ ~~官房長~~

~~官房総務参事官~~

アメリカ局長

参事官
北米一課長

佐藤

多

大臣記者懇談要旨 (11 月 27 日)

報道課長

1. 党首会談

佐藤総理は今日、^{両党}民社・公明~~系~~党首と約40分

会談したが、^{及び}主として佐藤総理^の説明に終止。

野党としては、来るべき国会においてたゞり議論しよう

とのおま^でりがあるが、私としては解散後の国会におい

て説明したい気持ちだ。

2. 日米首脳会談

(1) ニクソン大統領は、^東モントナの^{細部}異議までよくグリー
 ーフされていた。二つの交渉では秘密の協定とか
 了解がなかったことは大きなメリットだと思う。返還
 協定は来年早々から取りかかり、^{25日付}来年終りの特別国会
 にかけたい。こうすれば返還は早ければ早いほど
 いい。

(2) 核抜きについては、ワシントンに行くまで米の回答
 がなかったが、あのういことでおさまることについて相当
 の心証といわぬ物はある。現在ある核の
 撤去は wait and see だが私としては確信が
 ある。

(3) 鐵維については、ジネーグ会議という way

OUT があったが、さらに日ジャースはスタンズと

違い日米首脳会談においては鐵維を^{かたむき}取り上げず、

大所高所からの議論をすべきだとの考えをニクソンに

進言~~した~~。結局、鐵維の問題は2日目と3日目

に話にはでたが、コミニエにはでなかった。

(4) ニクソンは世界は大きくわけて米ソに政州全

体、中国及び日本の^{の対峙}5つに在るとの考えを示し、

中国に対しては日本くわいのところまで米中関係を

もってゆきたいがその方法について知恵はないが、

ということだった。二つとしては特別に知恵は

ないわけで、そういうざるを得なかったが、コミニエ

の表現は中共を provoke しないよう気を付けてあ

るつもりだ。

これはオフレコだが、ロジャーズは前にも中共と

の関係を改善したいといふながら蒋介石につつかれ

るとぐらぐらして私もどうもはっきりしないではない

かと指摘したことがある。外蒙との外交関係設定

はいい例だ。

3 人事問題

今まで本省首脳的人事については ^{諮任に} 非公式に話を

^{三々あは}したが、自分は帰国して change of mind をし

たので 御了承願いたい。 実は、下田大使はア

メリカの受けもいいし、神鍋返還についての follow

up もあるし、しばらく留任してもらえことにあつ

た。 対米関係は 経済問題も含め、本旨陣容

をしばらく変えたいことに係る。しかしそれ以外の

人事は動かして気分一新を図りたい。